

学年	5年	教科	音楽	単元名	和音の美しさを味わおう「静かにねむれ」
学校名	大石田町立大石田小学校			実践者	森 誠司
本時の学習活動	鍵盤ハーモニカで、I, IV, V, V ₇ の和音の演奏の仕方を知る。				
ICT活用のねらい	【1 教員による活用】		【2 児童生徒による活用】		
1 - 4	1-1 興味関心を高める 1-2 課題を明確につかませる 1-3 思考や理解を深める 1-4 知識の定着を図る		2-1 情報を収集・選択する 2-2 文や図表にまとめる 2-3 発表したり表現したりする 2-4 知識や技能の習熟を図る		
活用する機器・ソフト・コンテンツ等	書画カメラ デジタルテレビ				
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習		<input type="checkbox"/> グループ学習		<input type="checkbox"/> 個別学習
活用の場面・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 導入の場面		<input type="checkbox"/> 展開の場面		<input checked="" type="checkbox"/> まとめの場面
活用のポイント	<p><どのように使ったか></p> <ul style="list-style-type: none"> 教師(T2)が、鍵盤ハーモニカの和音の演奏を書画カメラで示し、児童は、モニターに映し出された鍵盤を同じ指で押さえることで、和音と運指を知る。 曲としての和音の演奏と、和音I, IV, V, V₇個々の演奏とを繰り返し示し、教師と一緒に演奏した。 和音を演奏するためには、音(どの鍵盤)と指(どの指)の2つを確認しなければならず、不慣れな児童はそれを瞬時に判別して演奏することが難しい。そのため、ほとんどが全音符の和音で演奏できる教材「静かにねむれ」は、一気に和音を押さえずとも、1つずつ音を押さえながら、4拍目で和音になるようにすればよいこととした。 教師の手や指は児童に比べ大きいので、必ずしも教師と同じ運指でなくともよいこととし、別の運指も示した。 児童は、モニターに映し出された鍵盤と指を確認しながら、演奏できる。 普段音楽の授業は音楽室で行うが、この時は、他学年の迷惑にならない時間に教室で行った。自分の机の上に鍵盤ハーモニカを置いて練習した。 				
児童生徒の学びの様子	<ul style="list-style-type: none"> モニターで押さえる鍵盤と指を確認しながら練習できた。 「その指で届かない」などの反応もすぐに聞こえたということから、押さえる鍵盤や指がモニターによってすぐわかったということだろう。 音楽室では机がないため、分からない(できない)と自分の演奏に集中できないこともあるが、教室の机で行ったことで、自分の練習に集中できた。 				
活用の様子(写真)					
実践を通して感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> 実物でやったのでは、どの鍵盤をどの指で押さえるかを後ろの児童まではっきり見せることはできないが、写真の通り、書画カメラを使うことで、後ろの児童まではっきりと確認することができた。 同じことを、同じように、一斉に行うときに、書画カメラ(大型モニター)は有効であると感じた。(例:筆順,習字,そろばん,裁縫など) 				